

1969年 大会記録

国際

◇世界選手権（3月3～10日、アルゼンチン・マルデルプラタ）

《グレコローマン》▼48kg級 佐野好則（日大）＝6位、▼52kg級 杉山三郎（日体大）＝二失、▼57kg級 服部正男（オリンピックサンワーズ）＝4位、▼62kg級 木口宣昭（法大）＝5位、▼68kg級 高橋義輝（専大）＝6位、▼74kg級 山縣盛治（日体大）＝4位、▼82kg級 佐々木正純（神奈川・横須賀高教）＝二失、▼90kg級 藤側宏喜（国士舘大）＝二失、▼100kg級、100kg以上級＝派遣なし

《フリースタイル》▼48kg級 梅田明彦（東洋大）＝3位、▼52kg級 安元（日大）＝二失、▼57kg級 田中忠道（福岡大教）＝優勝、▼62kg級 森田武雄（群馬・館林高教）＝優勝、▼68kg級 吉田敏忠（日大）＝5位、▼74kg級 山縣盛治（日体大）＝3位、▼82kg級 野尻修一（日大）＝4位、▼90kg級 藤側宏喜（国士舘大）＝三失、▼100kg級、100kg以上級＝派遣なし

◇全米選手権＝フリースタイル（4月10～12日、米国・ウォータールー）

▼52kg級 勝村靖夫（米国在住）＝優勝、▼57kg級 中野利男（ ）＝優勝、八田正朗（米国在住）＝3位、加藤喜代美（専大）＝三失、▼62kg級 渡辺宏（ ）＝六失、柿本友成（ ）＝二失、▼68kg級 中村文人（ ）＝優勝、▼74kg級 宇多慎司（ ）＝5位

◇全米選手権＝グレコローマン（5月9～10日、米国・デトロイト）

▼52kg級 勝村靖夫（米国在住）＝優勝、柴田益美（ ）＝2位、▼57kg級 八田正朗（米国在住）＝、▼62kg級 山本＝2位、大石＝3位、木口宣昭（ ）＝棄権、▼68kg級 松浪健四郎（米国在住）＝優勝、河原木（ ）＝4位、植松正和（ ）＝5位、▼74kg級 則末芳成（ ）＝5位

◇世界ジュニア選手権（7月14～19日、米国・ボルダン）

《フリースタイル》▼48kg級 太田弘司（静岡・稲取高）＝6位、▼52kg級 植田智（静岡・修善寺工高）＝2位、▼56kg級 宮原照彦（長崎・島原工高）＝3位、▼60kg級 斎藤勝彦（日大）＝優勝、▼65kg級 和田喜久夫（明大）＝優勝、▼70kg級 千葉幸博（青森県協会）＝2位、▼75kg級 伊沢厚（静岡・稲取高）＝3位、▼81kg級・87kg級・87kg以上級＝いずれも派遣なし

《グレコローマン》▼48kg級 太田弘司（静岡・稲取高）＝二失、▼52kg級 白井善行（静岡・稲取高）＝2位、▼56kg級 近藤光弘（静岡・稲取高）＝4位、▼60kg級 加藤能弘（神奈川・横須賀高）＝4位、▼65kg級＝派遣なし、▼70kg級 伊達治一郎（大分・佐伯農高）＝3位、▼75kg級 伊沢厚（静岡・稲取高）＝4位、▼81kg級・87kg級・87kg以上級＝いずれも派遣なし

国内

◇西日本学生春季リーグ戦（5月10日～6月1日、大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 関大（11季連続27度目）、[2] 近大、[3] 関学大、[4] 名城大、[5] 同志社大、[6] 中京大、[7] 福岡大、[8] 桃山学院大、[9] 名商大、[10] 広島修道大

◇世界ジュニア選手権代表選考会（5月15～16日、東京・中央区立総合体育館）

《フリースタイル》▼48kg級 太田弘司（静岡・稲取高）、▼52kg級 植田智（静岡・修善寺工高）、▼56kg級 宮原照彦（長崎・島原工高）、▼60kg級 斎藤勝彦（日大）、▼65kg級 和田喜久夫（明大）、▼70kg級 千葉幸博（青森県協会）、▼75kg級 伊沢厚（静岡・稲取高）、

《グレコローマン》▼48kg級 太田弘司（静岡・稲取高）、▼52kg級 白井善行（静岡・稲取高）、▼56kg級 近藤光弘（静岡・稲取高）、▼60kg級 加藤能弘（神奈川・横須賀高）、▼65kg級＝高橋龍一（東京・京北高）、▼70kg級 伊達治一郎（大分・佐伯農高）、▼75kg級 伊沢厚（静岡・稲取高）

◇東日本学生リーグ戦（5月30日～6月1日、東京・日大講堂）

《順位》[1] 専大（初）、[2] 日体大、[3] 国士大、[4] 早大、[5] 日大、[6] 東洋大、[7] 中大

◇全日本社会人選手権（6月7～8日、東京・青少年総合センター）

《実業団対抗戦優勝》自衛隊、《クラブ対抗戦優勝》中野クラブ

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 水島（垂水中教）、▼52kg級 安元（水戸ク）、▼57kg級 佐藤（自衛隊）、▼62kg級 三浦（自衛隊）、▼68kg級 出河満男（自衛隊）、▼74kg級 山縣盛治（長崎ク）、▼82kg級 伊藤勝春（京浜土地）、▼90kg級＝出場なし、▼100kg級＝出場なし、▼100kg以上級＝出場なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 水島（垂水中教）、▼52kg級 田中（自衛隊）、

▼57kg級 杉山三郎(松阪工高教)、▼62kg級 岩室好純(中野ク)、▼68kg級 渋谷周一(警視庁)、▼74kg級 出河満男(自衛隊)、▼82kg級 藤井照雄(群上紡績)、▼90kg級 国安(自衛隊)、▼100kg級 山口勇雄(自衛隊)、▼100kg以上級=出場なし

◇西日本学生選手権()

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 杉山秀樹(名城大)、▼52kg級 木野良則(近大)、▼57kg級 大治一雄(近大)、▼62kg級 菅沼啓安(関学大)、▼68kg級 長谷川健一(名商大)、▼74kg級 川窪巧(名城大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 園山継夫(名城大)、▼52kg級 毛利祥二(同志社大)、▼57kg級 阿部進(関大)、▼62kg級 菅沼啓安(関学大)、▼68kg級 高崎優(関学大)、▼74kg級 木内康博(近大)、▼82kg級 笹尾五十六(関学大)

◇インターハイ(8月2~5日、群馬・館林市民体育館)

《学校対抗戦》[1] 群馬・館林(8年ぶり3度目)、[2] 青森・八戸工、[3] 秋田・秋田商、秋田・五城目

《個人戦優勝者》▼48kg級 福田秀人(長崎・島原工)、▼52kg級 中島明(青森・八戸電波工)、▼55kg級 吉田栄勝(青森・八戸電波工)、▼58kg級 黒木正博(福岡・大牟田)、▼61kg級 内田三郎(群馬・館林)、▼65kg級 下田修(長崎・島原工)、▼69kg級 伊達治一郎(大分・佐伯農)、▼73kg級 茂木優(秋田・秋田商)、▼73kg以上級 飯野祐邦(群馬・渋川)

◇全日本学生選手権(10月11~13日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 梅田昭彦(東洋大)、▼52kg級 渡辺正明(法大)、▼57kg級 柳田英明(明大)、▼62kg級 阿倍巨史(専大)、▼68kg級 渡辺正孝(早大)、▼74kg級 吉田敏忠(日大)、▼82kg級 野尻修一(日大)、▼90kg級 谷公市(国士舘大)、▼90kg以上級 矢田静雄(日体大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐野好則(日大)、▼52kg級 渡辺正明(法大)、▼57kg級 七尾秀樹(国士舘大)、▼62kg級 野田秀彦(日体大)、▼68kg級 田上高(日体大)、▼74kg級 永野要祐(国士舘大)、▼82kg級 岡山忠博(日体大)、▼90kg級 谷公市(国士舘大)、▼90kg以上級 矢田静雄(日体大)

◇国体(10月27~30日、長崎・長崎高、島原高)

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 中田茂男(埼玉・自衛隊)、▼バンタム級 田

中忠道（福岡・福岡大教）、▼フェザー級 森田武雄（群馬・館林高教）、▼ライト級 伊藤昭（北海道・）、▼ウェルター級 吉田敏忠（愛知・日大）、▼ミドル級 野尻修一（富山・日大）、▼ライトヘビー級 伊藤義人（長崎・島原工高教）、▼ヘビー級 矢田静雄（愛知・日体大）

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 杉山三郎（三重）、▼バンタム級 桜間幸次（埼玉）、▼フェザー級 森脇和之（徳島）、▼ライト級 田上高（熊本）、▼ウェルター級 岡唯勝（徳島）、▼ミドル級 殿村明大（福岡）、▼ライトヘビー級 谷公市（大阪）、▼ヘビー級 開健次郎（埼玉）

《高校フリースタイル優勝者》▼48kg級 下田和弘（青森・八戸電波）、▼52kg級 館岡一夫（秋田・五城目）、▼56kg級 吉田栄勝（青森・八戸電波）、▼60kg級 榎本薫（青森・八戸電波）、▼65kg級 下田修（長崎・島原工）、▼70kg級 木村清人（宮城・東北）、▼75kg級 茂木優（秋田・秋田商）、▼75kg以上級 吉田光雄（山口・桜ヶ丘）

《高校グレコローマン優勝者》▼48kg級 萩原進（三重・松阪工）、▼52kg級 宇野勝彦（三重・松阪工）、▼56kg級 佐藤正樹（群馬・甘楽農）、▼60kg級 横溝茂（北海道・旭川南）、▼65kg級 上東正（兵庫・育英）、▼70kg級 梅原龍一（静岡・修善寺工）、▼75kg級 （長崎・大村工）、▼75kg以上級 菅原睦郎（北海道・美瑛）

◇全日本学生王座決定戦（11月18～19日、東京・日大講堂）=決勝成績

日大○ [3-3=内容] ●専大

※日大は5年連続6度目の優勝

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月28～30日、大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 関大（12季連続28度目）、[2] 近大、[3] 関学大、[4] 同志社大、[5] 名城大、[6] 中京大

◇東日本学生秋季新人戦（11月29～30日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 山川忠正（国士舘大）、▼52kg級 菅原明美（中大）、▼57kg級 荒井政雄（国士舘大）、▼62kg級 原田政光（日大）、▼68kg級 和田喜久夫（明大）、▼74kg級 吉田勝正（専大）、▼82kg級 青山紫郎（日体大）、▼90kg級 熊坂勇一（明大）、▼90kg以上級 磯貝頼秀（早大）

※フリースタイルのみ

◇1969年度全日本選手権（70年2月27日～3月1日、和歌山・粉河町立体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 梅田昭彦（東洋大）、▼52kg級 加藤喜代美（専大）、▼57kg級 柳田英明（明大OB）、▼62kg級 池野哲也（中大）、▼68kg級 田上高（日体大）、▼74kg級 吉田敏忠（日大）、▼82kg級 佐々木竜雄（自衛隊）、▼90kg級 谷公市（国士大）、▼100kg級 下田正二郎（大東大）、▼100kg以上級 矢田静雄（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 石田和春（小玉合名）、▼52kg級 杉山三郎（三重・松阪工高教）、▼57kg級 山本郁栄（日体大）、▼62kg級 藤浦義高（プール学院教）、▼68kg級 田上高（日体大）、▼74kg級 永野要祐（国士大）、▼82kg級 開健二郎（自衛隊）、▼90kg級 谷公市（国士大）、▼100kg級 山口勇雄（自衛隊）、▼100kg以上級 矢田静雄（日体大）